

大学院獣医生命科学研究科

令和 7(2025)年度 第 1 次入学試験

獣医学専攻 博士課程

専 門 科 目

獣 医 内 科 学

「解答例」

フロセミド：
・呼吸状態が十分に改善（呼吸回数、努力性呼吸の軽減）するまで 1 時間ごとに 2 mg/kg で IV または IM、あるいは 4 時間以内に総量 8 mg/kg を投与する。
・致命的な肺水腫ではボラス投与後に 0.66 - 1 mg/kg/h の用量で CRI する。
・飲水：利尿が確認出来たら自由飲水。
ピモベンダン：
・急性期よりも慢性期における使用を支持する臨床研究が存在するが、血行動態と経験的な点から急性期でも 0.25 - 0.3 mg/kg q12h の内服が強く推奨されている。また、多くの国で IV 投与可能である。
酸素投与：
・湿度と温度の管理可能な酸素室あるいは経鼻酸素カニューレによる酸素吸入を行う。
機械的治療：
・腹腔穿刺、胸腔穿刺 - 呼吸困難の原因と判断されれば行う。
鎮静：
・呼吸困難に伴う苦痛が治療されるべきと判断されれば行うべきである。
・麻薬や麻薬と抗不安薬の併用が実施されている。
・モニタリング：血圧と呼吸の反応を確認する
・ブトルファノール：0.2 - 0.25 mg/kg IM または IV で投与する（最も利用される）
・ブプレノルフィン：0.0075 - 0.01 mg/kg + アセプロマジン 0.01 - 0.03 mg/kg IV、IM、SC。
・その他：モルヒネやヒドロコドンなどの利用を検討する。

ドブタミン：

- ・ 上記治療に適切に反応しない場合は、心室機能改善のために使用しうる。
- ・ 用量：2.5 – 10 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{min}$ で CRI するが、開始量は 2.5 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{min}$ とする。
- ・ モニタリング：心電図波形により頻脈や異所性拍動を認めた場合には減量する。

ニトロプルシドナトリウム：

- ・ 致命的な肺水腫ではしばしば有用であり、1 – 15 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{min}$ の用量で CRI を 48h 行う。
- ・ 利用不可能であればヒドララジンやアムロジピンの利用を検討する。

ACEI：

- ・ 0.5 mg/kg q12h の用量で内服する
- ・ 利尿薬やピモベンダンとの併用に関するエビデンスは不明だが、急性心不全時に利尿薬単独よりも ACEI に利尿剤を加えた方が左房圧を低下させる報告がある。

ニトログリセリン軟膏：

- ・ 入院後最初の 24-36 h に約 0.5 インチ/10 kg の用量で無毛あるいは剃毛した皮膚に塗布する。